

〈関連年表〉

	全国のできごと	周辺のできごと	周辺の遺跡・文化財
16,000 年前	旧石器	・氷河期、日本列島と大陸が陸続き	・人の生活の痕跡が見られるようになる ・鷺羽山遺跡（倉敷市）
2,800 年前	縄文	・氷河期が終わり、暖かくなる ・土器づくりが始まる	・高梁川の沖積平野縁辺に貝塚がつくられる ・里木貝塚（倉敷市） ・中津貝塚（倉敷市） ・津雲貝塚（笠岡市）
1,750 年前	弥生	・米づくりが始まる ・金属器が伝わる ・卑弥呼が魏に使いを送る（239）	・足守川流域で大規模な集落が営まれる ・足守川流域、真備地域で墳丘墓がつくられる ・酒津貝塚（倉敷市） ・上東遺跡（倉敷市） ・楯築墳丘墓（倉敷市） ・宮山墳丘墓（総社市）
1,300 年前	古墳	・前方後円墳がつくられるはじめる ・倭の五王の時代 ・仏教が伝わる（538）	・吉備で巨大前方後円墳がつくられる ・八幡山周辺で古墳群がつくられる ・造山古墳（岡山市） ・作山古墳（総社市） ・天狗山古墳（倉敷市） ・二万大塚古墳（倉敷市）
1,200 年前	奈良	・平城京に都が移る（710） ・国分寺建立の詔（741） ・吉備真備が活躍する ・東大寺の大仏完成（752）	・小田川沿いに古代山陽道が整備される ・備中國分寺跡（総社市） ・備中國分尼寺跡（総社市）
800 年前	平安	・平安京に都が移る（794） ・院政の開始（1086） ・源平の争乱（1180～1185）	・酒津八幡神社創建（947） ・水島・藤戸合戦（1184） ・安養寺裏山経塚群（倉敷市）
700 年前	鎌倉	・源頼朝が征夷大将軍になる（1192） ・蒙古襲来（1274、1281）	・玉島で龜山焼がつくられ始める ・一遍上人が軽部宿を訪れる（1287） ・龜山遺跡（倉敷市） ・堂應寺宝筐印塔（倉敷市）
400 年前	室町	・足利尊氏が幕府を開く（1338） ・応仁の乱（1467～1477） ・本能寺の変（1582）	・備中高松城攻め（1582） ・高梁川で高瀬舟を用いた水運が始まる（16世紀末） ・梁場山城跡（倉敷市） ・青江城跡（倉敷市） ・南山城跡（倉敷市）
150 年前	江戸	・徳川家康が幕府を開く（1603） ・大政奉還（1867）	・船穂・玉島間で「高瀬通し」が開通する（17世紀後半） ・鉄穴流しによる高梁川の水質汚染が問題となる ・一の口水門（倉敷市） ・岡田藩陣屋跡（倉敷市）
明治～現代		・明治維新政府の樹立（1868） ・第一次世界大戦始まる（1914） ・第二次世界大戦始まる（1939）	・高梁川の河川改修工事が完了、現在の流れになる（1925） ・高梁川東西用水取配水施設（倉敷市）

※資料の転載・引用はご遠慮ください。

岡山県古代吉備文化財センター

〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3

TEL 086-293-3211 FAX 086-293-0142

<https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/>

さかづ 津遺跡現地説明会資料

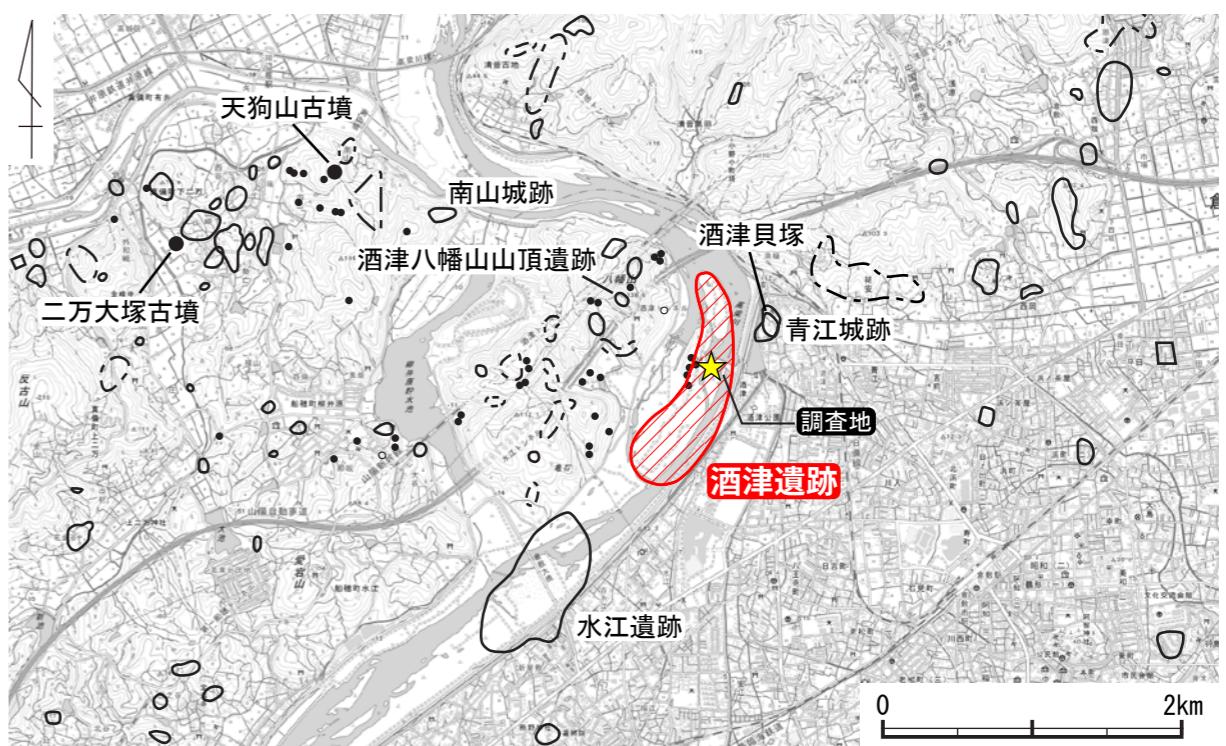
日程：令和7年12月13・14日（土・日）主催：岡山県古代吉備文化財センター
場所：倉敷市酒津地先 酒津遺跡発掘調査現場

岡山県古代吉備文化財センターでは、高梁川河川整備事業に伴い令和4年度から酒津遺跡の発掘調査を行っています。

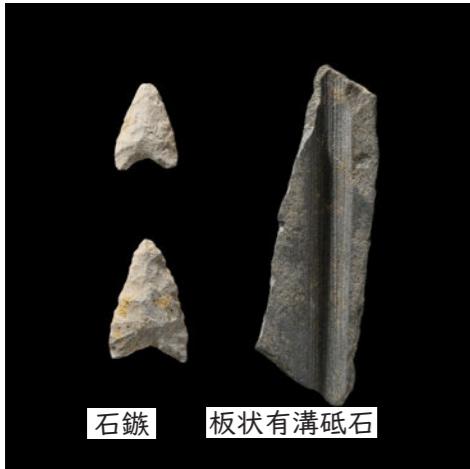
酒津遺跡は、倉敷市街地の北西にある酒津八幡山の麓に位置します。かつての高梁川は、八幡山の北側で東西に分かれしており、東高梁川と八幡山の間に本遺跡が立地していました。しかし、明治時代になると高梁川下流域で氾濫が多発したため、川の流れを一本にする改修工事が行われました。工事の結果、遺跡の大部分が河川敷となり、現在に至ります。

酒津遺跡は昭和30（1955）年に発見されて以来、川の底から多数の遺物が見つかることで広く知られるようになりました。中でも、弥生時代後期末の土器は「酒津式土器」と名付けられ、備中南部の同時期を代表する土器として学術的に有名です。

令和5年度からは笠井堰の南に位置する中州の北側を調査しており、これまでに縄文時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が見つかり、断片的に知られていた酒津遺跡の実態が明らかになりつつあります。

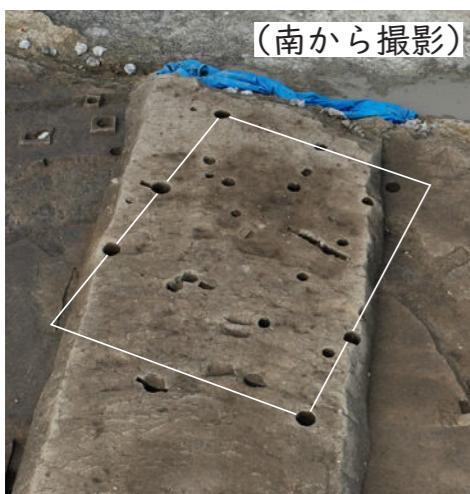


第1図 酒津遺跡と周辺の主な遺跡（1/50,000）（国土地理院電子地形図を加工）



石器や剥片
縄文時代草創期（約15000年前）

3～5区から出土した石器によって、酒津遺跡が縄文時代草創期まで遡ることが明らかになりました。板状有溝砥石をはじめ多くの剥片や石鏃が出土しています。



掘立柱建物
鎌倉時代～

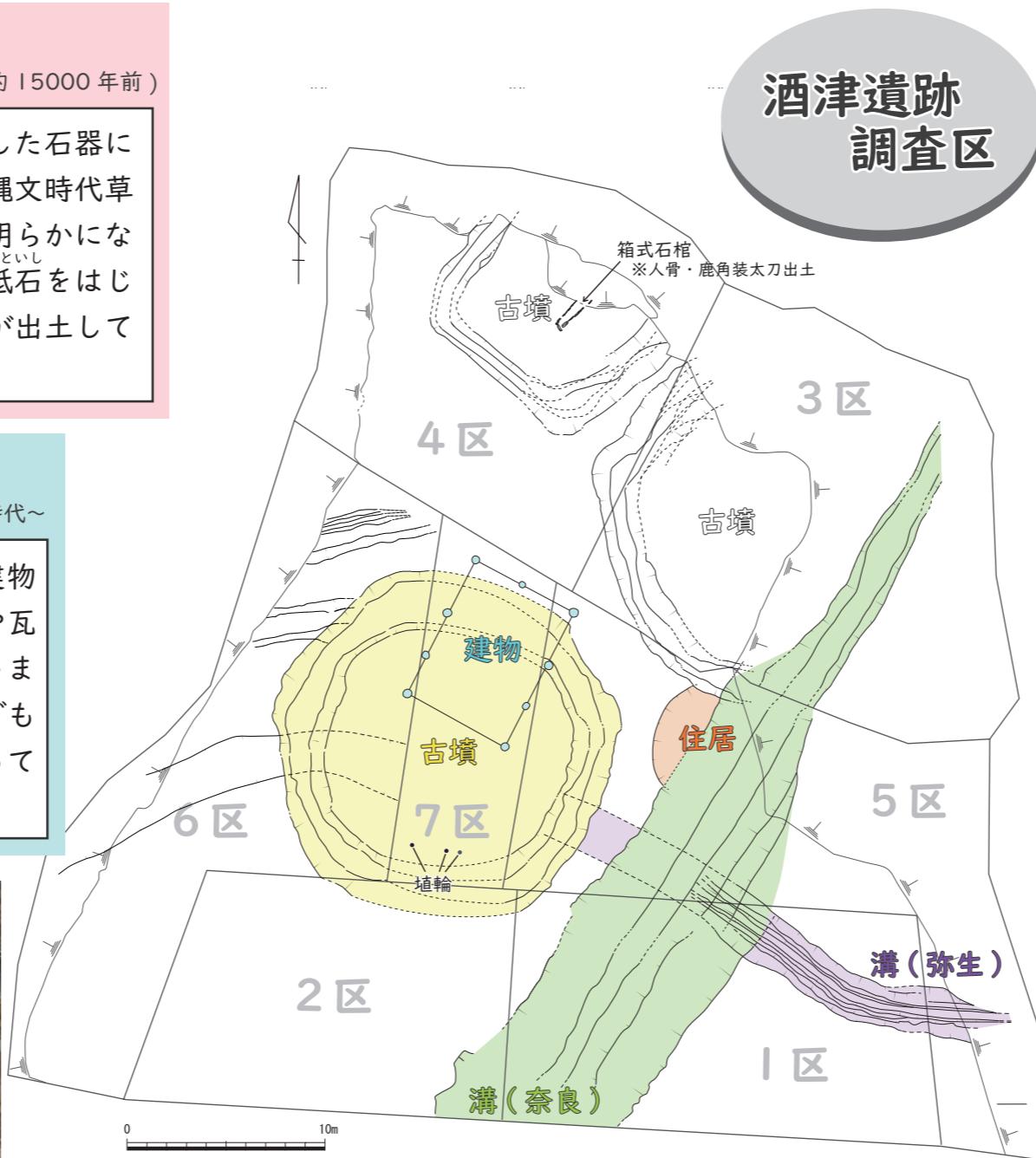
7.5m×5.5mの建物で、柱穴からは土器や瓦の破片が出土しています。これまでの調査でも同様の建物が見つかっています。



(南西から撮影)

周溝をもつ古墳
古墳時代中期（約1550年前）

これまでに5世紀後半（約1550年前）頃の古墳が複数見つかっています。いずれも10m程度の大きさの円墳や方墳で、周溝がほぼ接するほど群集しています。調査地北端の方墳には箱式石棺が残っており、人骨や鹿角装大刀などの副葬品が出土しました。その南東の円墳では円筒埴輪が墳丘や周溝の中で見つかりました。



第2図 酒津遺跡の主な遺構 (1/300)



南北にのびる大溝
奈良時代（約1300年前）

北東から南西方向へ直線的に掘られた大溝です。幅約7m、深さ約2mとかなり大規模なもので、長さも40m以上見つかっています。溝の中からは土師器、須恵器、瓦などが見つかりました。



焼失した竪穴住居
弥生時代中期（約2150年前）

平面円形の弥生時代中期の竪穴住居です。大部分が奈良時代の溝で壊されていますが、径7mと復元できます。住居内には炭化した建築部材や焼けた土が残り、火を受けて廃棄されたことがわかります。木材は住居の中心に向かって倒れており、屋根材が放射状に立てかけられていたと想定できます。本発掘調査で初めて弥生時代の住居が見つかり、集落像解明の糸口となることが期待されます。



東西にのびる溝
弥生時代中期（約2100年前）

調査区を東西に通る、幅約2m、深さ最大80cmの弥生時代中期の溝です。さらに西へ延びると想定されます。集落の区画用か用水用の溝の可能性が考えられます。